

海外安全対策情報（平成31年4月～令和元年6月）

1 社会・治安情勢

ベラルーシの治安は、おおむね良好ではあるものの、過去には爆発事件やショッピングモールでの通り魔事件も発生しています。不測の事態を避けるため、多くの人が集まる記念式典やコンサート、集会等においては十分に注意が必要です。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）ベラルーシ共和国内務省が発表した犯罪統計によれば、2019年1月1日から6月30日（2019年7月12日時点での最新情報）までのベラルーシにおける犯罪総数は44,722件で、前年同期と比較し8.2%増加しています。主な犯罪の内訳は以下のとおりです。

ア 窃盗14,900件（前年比6.0%増）

（うち住宅対象侵入窃盗）4,071件（同6.5%減）

イ 公然窃盗758件（同4.0%増）

ウ 恐喝83件（同93.0%増）

エ 詐欺2,270件（同1.8%増）

オ 暴力犯罪2,465件（同31.5%増）

カ 殺人及び殺人未遂156件（同4.0%増）

キ 重傷傷害375件（同7.1%増）

ク 強盗59件（同24.4%減）

ケ 強姦及び強姦未遂62件（同25.3%減）

（2）邦人被害事案は報告されていません。

（3）2019年4月～6月における主な被害事案は以下のとおりです（当地の報道から作成）。

ア 4月16日、グロドノ在住の1983年生まれの男がSNS内で未成年の少年を誘い出し、性的行為を行ったとして逮捕された。この男は、インターネット上で知り合った未成年の少年を様々な口実で誘い出し性的関係を迫るなどしていた。この男は車内で犯行を目論んでいたところ、逮捕された。計4人の未成年が被害者となった。

イ 5月18日夜、ミンスク市内のショッピングセンター「ガレリア」に爆発物を仕掛けたとの匿名の通報を受け、警察の爆発物処理グループと捜査グループが派遣されたが、爆発物は発見されなかった。「ガレリア」に爆発物を仕掛けたとの通報は、4月27日に続き、この1ヶ月半で2回目である。また、3月31日には、ショッピングセンター「ガリレオ」や

「ザモク」と鉄道駅，4月27日には地下鉄「ウルチエ」駅，4月29日には鉄道駅やホテル「ヒルトン」，空港に同様の通報があった。全ての事件における，通報は虚偽であった。地下鉄「ウルチエ」駅の事件のみ，容疑者は逮捕されている。

ウ 5月30日，モギリョフで病理解剖学科長を務める44歳の医師と4人の看護師が，詐欺，横領，職権乱用の疑いをかけられている。2010年から2018年1月まで，近親者の死について解剖を依頼する人々に対して，決められた金額に水増しした料金を請求していた。彼らはあらゆる口実を使い，現金以外での支払いを拒み，領収書を発行せずに現金を受け取っていた。492人が被害者であると認められた。5人全員が逮捕・送検されている。

エ 6月7日，ブレスト州カメネツキー地区で，62歳の男が2016年6月から2018年6月までの間再三にわたって，2008年生まれと2011年生まれの自身の孫に対して性的暴行をくわえていた事件について判決が下された。この事件は4月に一審判決が下された後，男が控訴していたが，控訴は棄却され，当初の判決通り9年の自由剥奪刑となった。

オ 6月18日23時頃，ブレスト州プルジャンスキー地区ラソシン村付近で，警察官が運転する車が自転車と衝突した。自転車に乗っていた男は，1977年生まれのモギリョフ住民で，病院へ向かう救急車の中で死亡した。車を運転していた警察官は逮捕された。

カ 6月26日，ゴメリの鉄道駅で，酒に酔って線路内を横断した29歳の男を拘束した警察官が，男の逮捕を妨げようとする10人の群衆に取り囲まれた。群衆はその様子をスマートフォンで動画撮影し，「ゴメリ警察の残虐行為！」と題してインターネット上にアップロードしたため，SNS上では活発な議論が交わされた。内務省は，「パトロール中の警察官が男の違反を記録し，当直室と一緒にいくところだった。事態を大きくしないために，警察官は男を説得し，群衆に理由を説明しようとしたが，群衆は聞く耳を持たなかった。」と説明した。男は違反を認め，罰金を支払った。警察によると，この男は過去に2回薬物関連法条項により裁判にかけられ，22回行政責任を問われている。なお，本年1月以降，ゴメリ州の鉄道では4人が死亡，1人が怪我を負っている。

3 テロ・爆弾事件の発生状況

なし。

4 誘拐・脅迫事件の発生状況

なし。

5 日本企業の安全に関する諸問題

なし。

※上述の事案は全体の一部の情報です。定期的に報道などを確認し，自身の安全確保に努めてください。